北海道知的障がい児・者家族会連合会会報（2019年11月発行） 責任者： 安田 由美

ほっと29号

ホームページ URL

http://do-ren.ciao.jp

＊ 第15回全施連 全国大会 in みやぎ （報告）

2019年10月7日・8日2日間にわたり、メルパルクホテル仙台において、約320名の参加者を迎え開催されました。

宮城県知事代理として県保健福祉部の伊藤部長、仙台市長代理として南部発達支援センターの蔦森所長が来賓挨拶をされ、日本知的障害者福祉協会会長井上氏からも全施連、親家族の皆様と一緒に当事者の幸せのために、というご挨拶もいただきました。

厚生労働省からの来賓である小林課長補佐には、行政説明の中で「施策が幅広く展開される中、家族の皆様の声を伺いたい」という言葉を何度も繰り返され、ここが全施連の力の入れ処であろう、と思われました。また、来年の熊本大会にも来賓の内諾を頂いたとの事、厚労省の会議に出席し、当事者に代わり意見を申し述べることができれば施策にも反映する一歩になるのではないか、と期待もふくらむものでありました。

基調講演には埼玉大学の宗澤先生、北九州市立大学の小賀先生から先日出版された書籍「地域共生ホーム～知的障害のある人のこれからの住まいと暮らし」について、各地の家族会、連合会でどのように参考書として使用してもらうか話されました。

今の施設事業所がどのように運営されているのか、当事者である子供や兄弟がどのように暮らしていくことが幸せな人生といえるのか、など難しい部分もありますが、家族が学ぶことで見えてくるものがあると思われます。

2021年度から全施連の会費値上げについて理事会と常任委員会で検討されておりますが、退会した県連や新規入会への働きかけ、また厚労省への請願等に費用がかかることが値上げの根拠ということです。

＊ 北海道知的障がい児・者家族会連合会 ～2019年度 第2回研修会～

10月29日（火）13：15～15：45 札幌市教育文化会館4F 講堂において、研修会を開催しました。72名の参加がありました。

はじめに、安田会長が次のように挨拶しました。

2019年度道家連第2回研修会に参加された皆様ありがとうございます。

講師の皆様にも、お忙しい業務の中お越しいただきありがとうございます。

今月、仙台において全国知的障害者施設家族会連合会全国大会が約320名の参加者を迎え開催されました。行政説明で来られた厚生労働省障害福祉課小林課長補佐の講演中には、何度も「当事者の家族の皆さんからの声をお聞きしたい」という言葉が聞かれ、全施連の最優先に取り組むべきは「厚労省へ意見を届ける」ことではないか、と改めて感じました。全施連が厚労省会議の席で意見を述べ、調査への協力を行っていくことが施策に反映させる一つの手段と考えます。

私達の子供や家族の時代とは違い、今後10年後、20年後の施設事業所での支援のあり方も変わってくると思われます。

また、先月からの台風被害を見ると、いつ足元で起こってもおかしくないと思います。利用している施設事業所の備えはどうでしょうか。高台だから、川が近くにないから、防災は必要ないと考えていないでしょうか。困っている地域の施設利用者を受け入れる余裕を持っているでしょうか。お互いに支え合える施設事業所であるよう、ご自分達の家族会で施設事業所と一緒に考えていただきたいと思います。

全施連からこの度発行された「地域共生ホーム」という本があります。現在利用している施設事業所が当事者本人にとって安心で幸せな「第2の家庭」になるにはどうしたらよいのか、職員や施設長に何をお願いし、家族は何をしたらよいのか、考える手立てになると思います。

先日の天皇陛下即位礼で、「人類の福祉」というお言葉がありました。障がい者も、高齢者も、社会的な生きづらさを持った人もそして私たちもお互いに支え合い、理解し合い、尊重し合う社会をつくることがこれから求められるのだと思います。

本日は、研修会を通して、お互いに学びあいたいと思います。

続いての研修は、2部構成での講演・説明でした。

＜研修 1＞ 13：15～14：45

✧ 『自立』に向けた支援 『知る』ことからはじめる

【講師】社会福祉法人 後志報恩会 コタン 高橋 賢太郎 氏

【資料】本日の流れ、事業所紹介、自閉の支援の歴史、各障害説明、ASD（自閉スペクトラム症）、自閉症の特性、コタンでの支援、コタンが目指す3つの自立、コミュニケーションの支援と効果、支援の目指すべきところ、終わりに、等々

【内容】講師の高橋氏は自閉症の研究で渡米し、TEACCH（自閉スペクトラム症生涯支援プログラム）を視察されました。持ち帰った知見を自施設のコタンで支援に活用し、利用者の表情が変わり笑顔が増えるなど、素晴らしい未来につながる成果を得ました。コタンでは少人数GHでの個別対応支援で大きな効果がありました。講師ご自身は「自分はTEACCHのアイディアを頂いて支援に生かしている」と話されました。

講演では、上記の多数スライドと動画などで自閉スペクトラム症の特性などを家族にもわかりやすく話をされ、参加者からも好評でした。

<研修 2> 15:00～15:45

✧　共生型サービス

【説明者】北海道障がい者保健福祉局 施設運営指導課 事業指定グループ

主査（障がい）　長多 将嗣 氏

【内容】共生型サービスの概要についての資料にそって、高齢者と障害児者が同一の事業所でサービスを受けやすくするため、介護保険と障害福祉両方の制度に新たに共生型サービスを位置づけることと、その制度詳細を説明されました。現在、介護サービス事業所が共生型障害福祉サービスの指定を受けている⇒全道で28事業所。障害福祉サービス事業所が共生型介護サービスの指定を受けている⇒全道で7事業所と少ない現状です。

✧　サービス等利用計画と個別支援計画

【説明者】北海道障がい者保健福祉局 障がい者保健福祉課 制度グループ

主査（地域づくり）　加藤 澄江 氏

【内容】サービス等利用計画と個別支援計画の関係、相談支援事業者とサービス事業者の関係図の資料にそって、逐次説明されました。

＊ 編集後記

道家連は今後も家族の学びの場としての研修会を企画いたします。研修会の企画などへのご要望がございましたら、道家連事務局または地区家族会事務局へお申し出ください。

第15回全施連全国大会決議

全国知的障害者施設家族会連合会は、2019年（令和元年）10月7・8日二日間にわたって仙台市において、第 15 回全国大会を開催し、一人で暮らすことが困難で、家族の支援も確実に失っていくなか、制度としてこれ以上の福祉の後退は許されないという想いから、障害福祉制度が知的障害のある人、その家族が安心して託せる制度になることを願って全国から集い語り合いました。充実した公的支援制度の実現が願いです。現在、福祉政策のパラダイムの転換が起きています。「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現政策は介護保険制度、障害福祉に「共生型サービス」を創設し、縦割りから横割り政策に転換し、障害福祉と介護保険制度の一体化、統合が図られようとしています。

私たちは障害者の権利を守り、障害のない人と同等の暮らしができることを求め、次の事項を本大会の決議と致します。

決　議

1．24時間切れ目のない支援で快適に安心・安全に暮らせる障害者支援施設を新設し、グループホームの質を充実して下さい。
2．支援の制限に繋がる支援区分は本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えて下さい。
3．安定して必要な支援が受けられる支援職員の配置基準の見直しと定員増と職員の処遇改善を急いで下さい。
4．知的障害者の特性を熟知し、福祉職の専門家としての施設職員を育成して下さい。
5．生活保護費以下の障害基礎年金の引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たして下さい。
6．障害福祉制度と介護保険制度との一体化・統合には反対します。
7．国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととして下さい。

2019年（令和元年）10月8日

一般社団法人 全国知的障害者施設家族会連合会

※ 2020年度第16回全施連全国大会は、熊本で開催される予定です。